



子供の觀念に關する研究

文學士 松本孝次郎

觀念は個々のものに付ての吾人の智識である。

即ち吾人が經驗して自分の心に受取つた一つの姿でありまして、其姿は刺激物がなくなつた後も尙心に殘て居る。故に吾々の思想の材料となるものであつて、此觀念に由つて吾々の智識は成立つて居るのである。さて觀念は實物を知覺して得るものであるから、實物を知覺することが精密なれば精密なる程、觀念も亦精密になる。從て觀念は人に由て精密の度が異つて居るものであるが、そ

ればかりでなく、觀念の作り方が異つて居る。例へば同じ人を見ても、男は重に其顔に付て知覺し女は其様子又は衣服に付て知覺することが多いから、同じ人に付ても、男の有て居る觀念と女の有て居る觀念とは其作り方が異つて居る様なものである、右の様であるから、實物を知覺する時に、自然のままに任せて置く時は人々皆各々自分の好むまゝに知覺して他に注意しない。從て完全な觀念を作ることが出来ない。

故に幼兒に實物を示す時には能く其注意すべき點を指し示してやるがよろしい。而して最初から實物の全体に注意させることはよろしくない。まづ一部に色、形、位置、といふ様に順次に注意させて、全体に及ぶ様にしなければならぬ。何故ならば、初から全体を見せるときは漠然として

確實なる知覺をすることが出來ぬ爲に、其觀念は極々ぼんやりしたものになるからである。凡て幼兒の有りて居る觀念は實に漠然としたものであるが、それは幼兒の畫く繪を見て知ることが出来る。かの幼兒が畫く人、馬の如き繪も全体としては人、馬として見ることが出来るが、其一部分を取て見るときは容易に手又は足として想像することが出来る。これ幼兒は人なり、馬なりに付て全体をばうと知て居て一部／＼を確實に知覺して居らぬからである。故に一部分々に注意させる様にとめて、全体にわたつた精確な觀念を得る様に導かなければならぬ。幼兒をして個々に付ての精確な觀念を得させるには、彼是混同する恐れのない様に其差別の甚しいものを示すことが大切である。故に假字を教へる時なども相類似した字を同時に教

へるよりは、其形の著しく異つて居るものを教ふる方がよろしい。又觀念を作ることに付て世間の父兄、保母、教師などの通例あやまつて居るとは其觀念の數を多くせんとつとむるのである。觀念の數を多くせんと務むるときは、自然其個々の觀念は不精密となるものであるから、たとひ其數は少くとも精確であることを望まなければならぬ。此點から申せば妄りに多くの實物を知覺させることは得策でない、又話をするにも其話の中に多くの觀念の含まれて居るものはよろしくない玩具を與へるにも、繪畫を見せるにも同じであるかの上流社會の子弟が多くの觀念を有て居るが確實でないのは餘り多くのものを不精密に經驗するからである。而して又實物に對する智識がなくて觀念の名稱丈を知らせることは大に避けな

ればならぬことである。日本で普通幼児に與へて居る處の繪は一枚に多くの者を繪て居る。又其繪は極不精密である。故に幼稚な兒の爲にも、又幾分か進んで居る兒のためにもよくない。ことに稍進んで居る兒のためには部分々の特徴を分解的に畫いた者が必要である。即ち種々の方面から觀念を作ることの出来る様な繪でなければならぬ。凡て幼児に觀念を與へるのには最初自然物の觀念を與へるのがよろしい。一体幼兒は自然物に近寄る便利の多いもので、之を知覺させることは容易である。加之、自然物の觀念を與へることは必要であるから、まづこれを第一とし、次に文明の利器に付ての觀念を與へるべきである。而して一方では幼兒をして知覺した觀念を材料として實物を作らせることが必要である。

吾人は多くの觀念を有て居て常に之を思ひ出して居る。而して其觀念の思ひ出し方には一定の規則によるものと、さうでないのとありすが、其の一定の規則によるのは之を觀念連合といひ、然らずして思ひ出すのは自發的復起といひます。而して幼兒は自發的復起に由て觀念を思ひ出すことが多いもので、段々發達するに従て觀念連合が多くなる。而して、其連合の仕方又發達に伴つて異つて來るものでありますが、最初は接近連合であります。これには空間的接近連合と時間的接近連合との二つがある。空間的接近連合といふのは例へば曾て或る場所へいつて其所で遊んだことがあつたとすれば、其場所を見て直に其遊んだ事柄を思ひ出す様なもので、時間的接近連合といふのは某所に居つた時に雨が降つたとすれば、雨を見

て某所に行つた事を思ひ出す様なのである。而して以上述べた接近連合に次いで起るのは類似連合で、これは類似の點に由つて觀念を思ひ出すのである。友達の事を思ひ出すときに、これに似た人の事を思ひ出したり。上野の事を思ひ出す時に、飛鳥山の事を思ひ出すなどはこの類似連合である。幼児に問をかけて幼児は其問相當の答をすることの出来るのは類似連合をすることの出来るのであります。實に大人の思ひもよらぬ無關係な答をする間は、接近連合によつて觀念を思ひ出すのであります。

觀念の連合の仕方は小學校二年位迄の間は男女共左程差のないものである。しかし個々の人に付て見れば種々ある、かの悪い家庭、又は繼母に育てられた意地悪い子供は多く反對連合をするもの

で、寒いといへば暑いといひ、貧といへば富といひ、面白いといへば面白くないといふものが多い。又賢い、こざかしい、子供は連合の仕方が早く、遲鈍の子供は遅い。故に連合の仕方を以て幾分か其性質を知ることが出来る。而して觀念をさづくるに如何にせはよいかといふに、まづ最初にイ、ロ、ハ、ニ、の性質を備へたAに付ての觀念を投つけたとすれば、次にはハ、ニ、ホ、ヘ、の性質を備へて居るBに付ての觀念を授げるといふ風に段々連絡したものを授けるがよろしいのであります。